

なぜ方言を話すヒーローは女性なのか —特撮ドラマ「ハルサーエイカー」の分析から—

高橋 美奈子

1. はじめに

メディアにおける特定のキャラクターが用いるステレオタイプの話し方が言語学的に取り上げられるようになって久しい。その代表的なものとして金水（2003）の「役割語」がある。例えば、「わしは知つとるんじゃ」のような話し方を聞けば、人々は老人や博士を一様に想起することから、役割語とは、「特定のキャラクターと結びついた、特徴ある言葉づかいのこと」（金水 2003 : vi）と定義されている。定延（2007）は、その特定のキャラクターの人物像を「発話キャラクタ」と名付け、「発話キャラクタ」を文法的な観点から検証している。さらに、田中（2011）は、「役割語」の中でも特に方言のステレオタイプの言葉遣いに着目し、「方言コスプレ」という概念を提唱した。このような一連の研究によって、現実の話しことばでは使われていないにも関わらず、人々が知っている言葉遣いの正体、つまり役割語の使用パターンが言語的に明らかにされた。

こうしたステレオタイプのイメージと結びつく役割語の使用パターンは子ども向けのテレビ番組でよく用いられ、ストーリーを容易に把握するための一助となっているが（金水 2003）、一方で、その偏ったイメージ形成の危険性も指摘されるところである。佐竹（2003）では、子ども向けテレビ番組はジェンダーによる「女ことば・男ことば」の規範意識が形成される要素があること、さらに高橋（2010、2011）では、方言アイデンティティの形成促進を意図したローカル子ども向け番組さえも、標準語がヒーローのことばとなっていることや女性登場人物による方言形使用は正常ではない異端性を示す指標となっていることを指摘している。

そのような中、従来「標準語＝ヒーローのことば」という役割語使用の

パターンに反する、方言を話す女性が主人公の番組「ハルサーエイカー」に出会った。沖縄テレビで2011年10月から放映された「ハルサーエイカー」⁽¹⁾は、沖縄県産ヒーロー「琉神マブヤー」に続く特撮ヒーロードラマであるが、従来の特撮ドラマと異なり、主人公は「麦わら帽子にジーンズ、バリバリの沖縄方言、土をいじって軽トラックを運転」する、「勇ましくも美しい」⁽²⁾と紹介されるギャル女性である。

本稿では、従来の特撮ドラマには現れなかった、方言を用いる女性が主人公である「ハルサーエイカー」を言語分析し、これまでのジェンダーや方言ステレオタイプイメージを拡散する役割語の使用パターンに一石を投じる可能性があるかどうかを検証する。

2. 「ハルサーエイカー」の主な内容

「ハルサーエイカー」は、「食」と「命」をテーマにした特撮アクションドラマである。「ハルサー」とは農家を意味し⁽³⁾、ハルサー一族の末裔である主人公「田畑愛（ハルサー・アイ）」が、沖縄を永遠の不作に陥れようとする「祖」を筆頭とした敵から沖縄の大地を守るために戦う物語である。

主な登場人物は、「ハルサー・アイ」に変身する主人公「田畑愛」、愛を援護する農具「カマ」と「ヘラ」から誕生した「ノグ・カマー」と「ノグ・ヘラー」、豚の精霊「ウワー」⁽⁴⁾ 仙人」である。敵は、研究員が不意に発見した古い骨から復活した琉球最初の間人「祖」、人間の食べ残したゴミから祖が作り出したモンスター「サマリタン・ドブー」と「サマリタン・チリー」⁽⁵⁾、祖に忠誠を誓う「アギヤー」⁽⁶⁾・リョウ」である。祖は人類最初のクワをアイの家から奪い、そのクワの力で沖縄に永遠の不作が訪れるよう呪いをかける。アイはその呪いを阻止すべく、強くなるために必要な3つのクガニ⁽⁷⁾ 野菜を手に入れようと、カマーとヘラーの助けを借りながら奮闘するというのが本作品の主な内容である。

3. 調査概要

本稿では、沖縄県限定で販売されたDVD『ハルサーエイカー』に収録されて

いる全13話（各話約30分）を全て文字化し、データとして使用する。データの中から、ジェンダー規範や標準語規範が明確に現れるとされる自称詞、対称詞、終助詞を抽出し、それぞれに現れる女性指標形式と男性指標形式、方言指標形式について分析する。なお、抽出する形式の選択理由や文字化の原則については、高橋（2011）を参照されたい。

4. 調査結果

4.1 発話文数と登場人物数

データから得られた登場人物数と発話文数は以下の表1の通りである。主人公の田畑愛（ハルサー・アイ）は802文（18.0%）と全登場人物の中で発話文数が最も多いが、全女性登場人物数が男性のわずか3分の1であるところを見ると、女性が主人公の番組であっても、やはり「特撮ヒーロー番組＝男性登場人物主流番組」という特徴に沿っていると言える。

表1 『ハルサーエイカー』の登場人物数と発話文数

	登場人物数	発話文数
女性登場人物	9人 (25.7%)	1338文 (30.0%)
男性登場人物	22人 (62.9%)	3023文 (67.7%)
性別不詳者 ⁽⁸⁾	4人 (11.4%)	104文 (2.3%)
合計	35人 (100.0%)	4465文 (100.0%)

4.2 自称詞

続いて、自称詞についてみてみる。全登場人物による自称詞の出現状況は表2の通りであるが、結論から言えば、従来からある社会規範に従った自称詞使用が主である。

特筆すべき使用としては、女性登場人物である竹子による「ワッター」使用と男性登場人物であるウワー仙人とヘラーによる「わたし」使用があるが、竹子は全女性登場人物の中で最も年配で、息子夫婦と暮らす中年女性である。これまでの役割語の使用パターンにおいても、年配者はジェンダーに関係な

く方言使用が許されている役割であるので驚くにはあたらない。

- (1) 竹子：イエー、これワッタームンヤ（おい、これはわたしたちのものだ）。ハッサビョナー（あきれてものが言えないよ）、なんネー（なんだよ）もう人のものを。

表2 全登場人物による自称詞の出現状況

〔（ ）内は出現度数、アンダーラインは味方側人物、斜体は敵側人物、通常表記は位置づけ不明人物〕

形式	語形	女性登場人物	男性登場人物
方言指標形式	ワン*・ワー*	なし	<u>ドブー</u> (20)、 <u>祖</u> (13)、 <u>ウワー仙人</u> (4)、 <u>ヘラー</u> (2)、 <u>幹也</u> (2)、 <u>田畑豊作</u> (1)
	ワッター*	<u>竹子</u> (2)	<u>ドブー</u> (12)、 <u>幹也</u> (1)、 <u>チリー</u> (1)、 <u>リョウ</u> (1)
女性指標形式	わたし・わたしたち	<u>竹子</u> (8)、 <u>ハナコ</u> (8)、 <u>佳苗</u> (6)、 <u>田畑愛</u> (5)	<u>ウワー仙人</u> (1)、 <u>ヘラー</u> (1)
	あたし・あたしたち	<u>田畑愛</u> (41)、 <u>竹子</u> (1)、 <u>ハナコ</u> (1)	なし
男性指標形式	おれ	なし	<u>カマー</u> (28)、 <u>ヘラー</u> (19)、 <u>収</u> (11)、 <u>リョウ</u> (10)、 <u>チリー</u> (10)、 <u>清純</u> (6)、 <u>祖</u> (3)、 <u>幹也</u> (2)、 <u>研究員B</u> (1)
	ぼく	なし	<u>ウワー仙人</u> (4)、 <u>ヘラー</u> (3)、 <u>清純</u> (2)、 <u>収</u> (1) <u>幹也</u> (1)

* 「ワン」（主格）と「ワー」（所有格）は方言形自称詞「わたし」の意、「ワッター」は「わたしたち」の意。

男性登場人物ウワー仙人とヘラーによる「わたし」は以下の発話で現れる。

- (2) ウワー仙人：そう、もうもうもういい。あんたとはご飯食べたくない。わたしはよ、あっちで食べる。

- (3) ヘラー：それは失礼でしょ、これ、これはだめ、これこれ、堪忍袋の緒がねえ、伸びましたよもうわたし。

いずれの「わたし」も対話者への怒りを表現している発話文中で使われている。表2を見ると、ウワー仙人がよく使う自称詞は「ぼく」と「ワン」「ワー」であり、ヘラーは「おれ」であるが、上記の談話例(2)と(3)では、親

しい間柄である対話者に改まった自称詞「わたし」を使うことで相手を疎と待遇し、心的距離を表現している。このような丁寧度の異なる自称詞の使い分けが、味方側の男性登場人物のみに見られるのは、味方側の登場人物に視聴者が感情移入しやすいように、丁寧に描かれているゆえであろう。

さらに、他の自称詞との相対的な丁寧度で言えば、「わたし」に続き、「ぼく」は丁寧度が高い自称詞と言えるが、「わたし」同様に、味方側の人物のみに使用が見られる。方言形自称詞「ワン」「ワー」「ワッター」の使用状況を見ても、ドブーや祖といった敵側の中心人物による使用が目立ち、「方言＝脇役」という役割語の使用パターンはここでも見られる。

つまり、自称詞については性規範、方言・標準語規範に従った使用パターンを超えた例は見られなかった。

4.3 対称詞

対称詞についての全登場人物の使用状況は表3の通りである。表3を見ると、自称詞の結果とは異なり、女性登場人物による方言指標形式と男性指標形式の使用が多いことがわかる。

自称詞では、方言指標形式の使用は中年女性、竹子のみによるものだったが、対称詞の方言指標形式は竹子の他に、若い女性である田畑愛と愛の親友、佳苗の二人にも使用が見られる。いずれも特別な状況ではなく、日常的な会話において使われている。

(4) 佳苗：えー、ヤーわたしの友達に文句言ったら死なすって言ったよな。(佳苗の兄、収に対しての発話)

(5) 田畑愛：ヤー寝てただろ？(クガニ野菜に対しての発話)

また、女性登場人物による男性指標形式「おまえ」の使用も竹子に加えて、田畑愛と佳苗に見られる。

(6) 佳苗：うざい、おまえきもい、あっちいけ。(佳苗の兄、収に対しての発話)

(7) 田畑愛：おまえめっちゃ食べるな。(ウワー仙人に対しての発話)

表3 全登場人物による対称詞の出現状況

〔()内は出現度数、アンダーラインは味方側人物、斜体は敵側人物、通常表記は位置づけ不明人物〕

形式	語形	女性登場人物	男性登場人物
方言 指標 形式	ヤー*	<u>田畑愛</u> (18)、 <u>佳苗</u> (2)、 <u>竹子</u> (1)	<u>ドブー</u> (31)、 <u>リョウ</u> (26)、 <u>ヘラー</u> (7)、 <u>カマー</u> (2)、 <u>チリー</u> (12)、 <u>収</u> (5)、 <u>清純</u> (2)、 <u>ウワー仙人</u> (1)、 <u>昶</u> (1)、その他 (6)
	ヤッター*	<u>田畑愛</u> (6)	<u>チリー</u> (4)、 <u>ヘラー</u> (2)、 <u>リョウ</u> (7)
女性 指標 形式	あんた	<u>竹子</u> (15)、 <u>ハナ</u> <u>三</u> (2)、 <u>田畑愛</u> (5)、 <u>友美</u> (1)	<u>ウワー仙人</u> (30)、 <u>清純</u> (4)、 <u>カマー</u> (1)
	あなた	<u>田畑愛</u> (1)	なし
男性 指標 形式	おまえ	<u>田畑愛</u> (14)、 <u>佳苗</u> (5)、 <u>竹子</u> (2)	<u>昶</u> (18)、 <u>ヘラー</u> (17)、 <u>ドブー</u> (8)、 <u>清純</u> (3)、 <u>チリー</u> (6)、 <u>収</u> (4)、 <u>研究員B</u> (1)、 <u>田畑豊作</u> (1)、 <u>ウワー仙人</u> (4)、 <u>リョウ</u> (1)、 <u>カマー</u> (2)

*「ヤー」は方言形対称代名詞「おまえ」、「ヤッター」は「おまえたち」の意。

「おまえ」は「ヤー」と同様に親しい相手に対して使われている。ただし、佳苗は兄である収に対しての使用しか見られないが、田畑愛は敵、味方にかかわらず、「ヤー」も「おまえ」も使用している。

一方、田畑愛は方言指標形式と男性指標形式のみならず、女性指標形式も使っており、特に丁寧度の高い「あなた」は田畑愛のみに使用が見られる。

(8) 田畑愛：あなたの怒りに怒りで応えたわたしを、ずっと支えてくれて、わたしの代わりに折れたノーグ・ヘラーです。(祖に対しての発話)

「あなた」は、これまで敵として戦っていた祖が、自分たち人類の祖先であることをウワー仙人に指摘され、これまで抱いていた敵対心から敬意に変わるシーンで使われている。対称詞においても、自称詞同様に、味方側の人物だけが、丁寧度の異なる対称詞を用いて使い分けを行っている。やはり、こ

こでも味方側の人物は複雑な待遇関係を表現できるよう丁寧に描かれている。

結果として、対称詞の出現状況を見る限り、主人公である田畑愛は男性登場人物と使用傾向に大きな違いが見られないと言える。

4.5 終助詞

終助詞の出現状況は表4の通りである。表4を見ると、対称詞同様に女性登場人物による方言指標形式と男性指標形式の使用が見られる。特に、田畑愛には抽出した全ての方言指標形式と男性指標形式の使用が見られた。

- (9) 田畑愛：なんだバヨ? (ウワー仙人に対して)
- (10) 田畑愛：そんなん両方に決まってるヤッシ。(リョウに対して)
- (11) 田畑愛：うん、言っとくサーね。(佳苗に対して)
- (12) 田畑愛：汚いぞドブー。(ドブーに対して)
- (13) 田畑愛：打つぜ? (カマーに対して)
- (14) 田畑愛：しかもタンチャー (短気) だよな。(ウワー仙人に対して)

高橋 (2011) では、女性登場人物による男性指標形式の使用は高齢女性、悪役女性、異国籍の女性など女性として何らかの有標性を有している女性に使用が限定されており、また女性による方言指標形式の使用は正常ではない異端性を示すものであると述べた⁽⁹⁾。しかし、上述の談話例 (9) から (14) を見ると、特殊な状況での使用ではなく、さらに、田畑愛は本作品の中では若い女性ということで、特異な人物というわけでもない。

また、対称詞同様に、男性登場人物の使用状況を見ると、敵であるドブーの方言形使用は目立つものの、味方側のカマーやヘラーも敵側の人物同様に方言指標形式も男性指標形式も用いている。高橋 (2010) で分析したローカルヒーロー作品「琉神マブヤー」では、方言指標形式や男性指標形式は悪役や脇役に使用が偏っており、主役のヒーロー男性は標準語形式に偏っていた。つまり、「ハルサーエイカー」の対称詞と終助詞の使用状況を見ると、従来の役割語使用パターンに見られる「方言＝脇役」といった偏りは見られない。

表 4 全登場人物による終助詞の出現状況

[() 内は出現度数、アンダーラインは味方側人物、斜体は敵側人物、通常表記は位置づけ不明人物]

形式	語形	女性登場人物	男性登場人物
方言 指標 形式	パー (確認・同意)・パーヨ (断定)	<u>田畑愛</u> (32)、 <u>佳苗</u> (2)、 <u>竹子</u> (1)	<u>ドブー</u> (28)、 <u>カマー</u> (13)、 <u>チリー</u> (13)、 <u>幹也</u> (9)、 <u>ヘラー</u> (8)、 <u>昶</u> (5)、 <u>収</u> (5)、 <u>リョウ</u> (4)、 <u>清純</u> (2) 男A (1)、
	ヤッシ・ヤッサ (強い断定)	<u>田畑愛</u> (7)、 <u>竹子</u> (1)	<u>ドブー</u> (16)、 <u>チリー</u> (10)、 <u>昶</u> (7)、 <u>収</u> (6)、 <u>カマー</u> (4)、 <u>ヘラー</u> (2)、 <u>リョウ</u> (2)、若者A (1)、若者B (1)、 <u>清純</u> (1)
	サー (呼びかけ・強調、念押し、軽い断定)	<u>田畑愛</u> (24)、 <u>佳苗</u> (13)、 <u>竹子</u> (10)、 <u>ハナコ</u> (7)、 <u>友美</u> (3)、 <u>純恵</u> (2)、 <u>あきの</u> (1)、 <u>ひかり</u> (1)	<u>ヘラー</u> (16)、 <u>カマー</u> (15)、 <u>ウワー</u> 仙人 (14)、 <u>昶</u> (5)、 <u>清純</u> (4)、 <u>田畑豊作</u> (3)、 <u>リョウ</u> (2)、 <u>ドブー</u> (1)、 <u>収</u> (1)、 <u>清純</u> (2)、 <u>清純の後輩</u> (1)、若者B (1)
女性 指標 形式	かしら	なし	なし
	のよ	なし	なし
	わ・わね・わよ	なし	なし
男性 指標 形式	ぞ・だぞ	<u>田畑愛</u> (1)	<u>昶</u> (3)、 <u>ヘラー</u> (1)
	ぜ・だぜ	<u>佳苗</u> (3)、 <u>田畑愛</u> (1)	<u>チリー</u> (12)、 <u>ドブー</u> (7)、 <u>ヘラー</u> (6)、 <u>カマー</u> (3)、 <u>リョウ</u> (1)
	だな・だよな	<u>田畑愛</u> (5)	<u>ヘラー</u> (16)、 <u>リョウ</u> (7)、 <u>チリー</u> (7)、 <u>カマー</u> (6)、 <u>ドブー</u> (6)、 <u>昶</u> (3)、 <u>収</u> (1)、 <u>清純</u> (1)

4. 6 談話から見る主人公の役割

これまで見てきたように、主人公の田畑愛は男性登場人物同様に方言指標形式や男性指標形式を使うキャラクターであるが、彼女は本作品の中でどのような人物として描かれているのか。本節では、談話から田畑愛の人物像を考察する。

まず、本作品は女性が主役であっても特撮ヒーロー番組であるので、田畑愛も「ヒーロー」として扱われる文脈が見られる。

(15) ハナコ：うん、何かアイちゃんってすごいよー、デージ (とても)

カッコいい。

竹子：ねえ、デージ（とても）カッコイイよね。

ハナコ：うん。

ハナコとは竹子の息子、幹也の妻であるが、(15)を見ると、田畑愛は女性登場人物のあこがれの存在として描かれている。

一方、男性登場人物には、信頼できるがヒーローとしては頼りない存在として受け止められている描写が見られる。

(16) カマー：いや、愛ちゃん大丈夫かなと思って。

ヘラー：気にしないで探そうぜ。

カマー：でもほら、愛ちゃんってデージ（とても）不器用で鈍感でいつも一生懸命だけど空回りしてるって。

ヘラー：ははっ。ほんとあれ、だめだめだよな。

カマー：ダアルよね（そうだよな）。永遠の不作を阻止する正義の味方が、愛ちゃんってこれアウトでしょ。

ヘラー：アウトだよな。

カマー：アウトだよな。

ヘラー：でもよ。なんでかわからんけど、なんて言っているかわからんけどよ、愛のことは信じられるんだよな。おれ愛のこと信じてみよ。

カマー：強いね。

ヘラー：うん、愛は強いよ。

カマー：違う、ヘラーがよ。

カマーとヘラーは愛の参謀役なので、愛のことを頼りないと感じていても不思議はない。しかし、本作品と同じく沖縄県産ヒーロー、琉神マブヤーも頼りないヒーローとして描かれていた⁽¹⁰⁾。日経流通新聞（2011年10月17日）では、「敵は倒さず許す」ヒーローである琉神マブヤーは、沖縄の地域ヒーローらしいと紹介されている。次の会話を見ると、本作品のヒーロー、ハルサ

ー・アイ（田畑愛）も敵を倒すことを嫌うヒーローであることがわかる。

(17) カマー：てゆーか、愛ちゃん、なんでクラストギア使わんの？

田畑愛：クラストギア？

カマー：ほらあクラスト⁽¹¹⁾で作った剣よー。この前出したサー
（でしょ）、リョウをズバツと切りたおしたやつ。

ヘラー：あれハルサーエイカーの能力のひとつダワケサ（なん
だよ）。

田畑愛：あれが？

ヘラー：ああ、愛は誰からも習わんでクラスト使ってるから何
も知らないんだ。

カマー：あは一、じゃあ今度使ってよ。ちょっと聞いている？使
ってよって。

田畑愛：うるさい。

カマー：はあ？さっき危なかったから言ってるんでしょ？なん
で使ワンバ（使わないの）？

田畑愛：使いたくない。

カマー：どういうことよ？

田畑愛：あんなの使いたくない。

カマー：なんで？クラストギア、シニ（とても）かっこいいさ、
おれ大好きだけど？もっと出してさ。

田畑愛：もうヤガマシイ（うるさい）。

カマー：本気で使いたくないって言ってるの？どうする？出さ
んかったら負けるよ。死ぬかもしれない。そんなのき
なこと言ってる場合じゃないでしょ。

田畑愛：そんなの使ったら相手が本当に…本当に…。

カマー：だれも傷つけたくないのはわかるけど、それができ
るんだったら最初っからやってるよ。自分のエゴの為だけ
に戦うな。付き合ってるこっちは迷惑だよ。

田畑愛：ヤー（おまえ）なんダバ（なの）？だったら最初っからあいつらに会った時点で逃げればいいヤッシ（だろ）。

逃げるのも一つの勇気じゃないバァ（のか）？

カマー：逃げるののどこが勇気ダバ（なのか）？

ヘラー：はいもう反省会終了、終わり。

こうしてみると、「敵を倒さず許す」ヒーロー像というのは、沖縄のヒーローアイデンティティの一つとして定番化されつつあるようだ。田中（2011）の方言イメージ調査では、「あたたかい方言」の一位が沖縄であるという。こうした沖縄県産ヒーローの「頼りなさ」や「敵を倒さず許す」寛大さがこうした「あたたかい方言」イメージ形成の一助となっていると言える。

ところで、主人公の人物描写で最も多いのが、以下の発話内で見られる「ブス」扱いである。

(18) 収：ブスは何着ても同じったら。

(19) ナーバーラー（へちまのクガニ野菜）：人間って勝手な生き物ダヤー（だね）。それでもハルサーエイカーネー（なの）？このブスが。

(20) ドブー：だまっとけブス。

(21) カマー：まあブスとは思ってただろうね。

田畑愛役の福田萌子はミスユニバースJAPANのファイナリストに残った経歴を持つモデルであるので、誰もがイメージするブスとは異なる。しかし、ブスとして、異性愛の対象である美しいヒロインとして設定していないからこそ、上述したような方言や男性指標形式を使う人物として描かれているのではないか。事実、「琉神マブヤー」と「琉神マブヤー2」に登場した女性ヒロイン、クレアは、田畑愛同様にロングヘアーに長身の女性であるが、男性からのあこがれの存在として描かれているときには女性指標形式の使用が発話にも見られたが、後に自立した女性として描かれるようになると女性指標形式の使用が見られなくなった（高橋 2011）。

田畑愛の女性性が際立つ描写としては、ブス以外に肝っ玉かあちゃんとしての人物像が挙げられる。

(22) アンマー・ベニー（紅イモのクガニ野菜）：うわー、いっぱい子ども産みそうなネーネー（お嬢さん）だね。上等サ（立派だね）。

こうした人物像も、出生率全国一位の沖縄県産ドラマゆえであろう。

このように見ると、ブスで肝っ玉かあちゃんである田畑愛は、とても男性登場人物の恋愛対象になりそうにはないが、実際、本作品の中でそういった描写は全くない。

しかし、最初に紹介したように田畑愛は農業ギャルである。ヘラーとカメラという二人の男性を連れている愛を親友、佳苗が初めて見た場面で、次のような会話が見られる。

(23) 佳苗：ねえねえねえねえ、もしかして、彼氏？彼氏的な感じ？
田畑愛：そういうんじゃない的な感じ。
佳苗：なーんだ。ねえ、じゃあさ、夜ひま？クラブ行く？
田畑愛：ごめん無理ってば。

「～的」や「～感じ」といった若者特有の比喩表現⁽¹²⁾とともに、クラブが話題に挙げられており、若い女性をイメージさせる会話をしている。

ここで、本稿で最初に掲げた問いに戻る。なぜ方言を話すヒーローは女性なのか。当然のことながら、方言を話すヒーローが男性では「標準語＝ヒーローのことば」という役割語の使用パターンに反するからである。では、なぜ女性なら許されるのかというと、高橋（2011）でも指摘したように、高齢女性や異国籍の女性、成人なのに幼稚な女性などの例外的な女性、つまり男性の恋愛対象にならない女性であれば、方言は認められるのである。本稿でみてきたように、田畑愛は方言も男性指標形式も男性並みに使う女性である。それゆえに、異性愛の対象とされるような描写は全く見られず、むしろブスとして扱われ、さらには肝っ玉母ちゃんと描写される女性であった。田畑愛

のような若い女性は通常、異性愛の対象とされやすく、例外的な女性となることが難しい。そこで、ギャルという、「ファッションやライフスタイルが突飛と見なされながらも、それらが同世代にある程度文化として共有されている若い女性」⁽¹³⁾の役割を与えたのである。つまり、ギャルという役割は、女性としての有標性の一つとして非常に有効な手段であるのだ。

5. おわりに

結論として、「ハルサーエイカー」は「方言＝脇役」といった偏ったイメージ形成は見られなかったものの、残念なことに役割語の使用パターンに一石を投じる番組とは認められなかった。女性として異性愛の対象にされていない女性、つまりギャルという特殊な役割を持つ女性が主人公であるがゆえに、方言を話すことが可能だったにすぎなかった。斎藤（1998）がいうように、特撮ドラマやアニメの国においては真正フェミニストの登場はほど遠いといえるだろう。さらに、本作品は、同じく沖縄ローカルヒーロー作品「琉神マブヤー」と同様に、「頼りない」、「敵を倒さず許す」ヒーロー像のステレオタイプのイメージを再生産していた。おりしも、先日、オスプレイ配備反対の県民集会在沖縄県内で開かれたが、そこには戦う沖縄、許すことができない沖縄の姿があった。沖縄のイメージとして作られた沖縄のヒーロー像と現実の沖縄社会が求めているヒーロー像のギャップは広がるばかりではなかろうか。

2012年10月より「ハルサーエイカー2」が始まった。今後の展開に期待したい。

注

(1) 各話30分の全13話である。土曜日の朝10時台という放送枠にもかかわらず、初回視聴率が12.1%を記録、全13話の平均視聴率も11.4%（最高視聴率13.9%）と高い数字を獲得した。2012年10月から第2シーズンの放送も決定している。

(2) 「東京ウォーカー ウォーカープラス」2011年10月17日

(<http://www.walkerplus.com/top/tokyo.html>) より引用。

- (3)「エイカー」とは「ハルサーエイカー」の公式HP (<http://halser-acre.com/>) によると、「超人」の意。
- (4)「ウワー」とは琉球方言で「豚」の意。
- (5)「チリ」は琉球方言で「ゴミ」の意。
- (6)「アギヤー」とは琉球方言で「追い込み網漁業」の意。
- (7)「クガニ」とは琉球方言で「黄金」の意。
- (8)性別不詳者とは人間のように話をするクガニ野菜たち(紅イモの「アンマー・ベニー」、ゴーヤーの「ゴーヤーゴーゴー」、へちまの「ペラペラナーペラー」)と大地をさす。クガニ野菜は容姿や話し方から特定の性別を想定することは可能であったが、野菜という性質上、性別不詳とした。
- (9)高橋(2010)でも述べたが、一言で方言指標形式と言っても、男性のみに使用が許されているような男性指標形式と言える方言語形から、表4の「サー」のように男女にもよく使われるものまで幅がある。特に、「サー」は「観光客を受け入れる役割を担う、『ハッピー・オキナワン』の言葉遣いとしての機能を果たしている」(本浜2011:192)と言われる。表4を見ても他の方言形終助詞に比べ、性差に関係なく使用されている終助詞ゆえにそういった温かさを表象できると思われるが、その点については別稿で述べる。
- (10)高橋(2011)のデータでは、オバアがマブヤーである叶に対して「おまえはもう、ヨーガリガリー(弱々しく)して、もうヨーガラ(ひ弱)」という発話があった。
- (11)クラストとは「ハルサーエイカー」公式HPによると、ハルサーエイカーが操る土のエネルギーを指し、土との対話や土から何かを作り出すときに発動するものの意。
- (12)米川(1998)によると「～って感じ」や「～みたいな」、「～系」などの新しい比喻表現は、仲間同士が共有しているイメージを瞬時に伝達できる機能があるという。
- (13)ウィキペディアフリー百科事典「ギャル」の見出し語の語釈より引用。

参考文献

- 株式会社エイカーフィルム(2012)『ハルサーエイカー』DVD
- 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 斎藤美奈子(1998)『紅一点論』ビレッジセンター出版局
- 佐竹久仁子(2003)「テレビアニメの流布する『女ことば/男ことば』規範」『ことば』24

号 pp. 43-59 現代日本語研究会

定延利之 (2007) 「第2章 キャラ助詞が現れる環境」 金水敏編『役割語研究の地平』
pp. 27-48 くろしお出版

高橋美奈子 (2011) 「ローカルヒーロー作品における女性登場人物の話しことば」『ことば』
32号 pp. 55-71 現代日本語研究会

高橋美奈子 (2010) 「沖縄生まれの戦隊ヒーローの話しことばにみる性差—人気テレビ番組
『琉神マブヤー』の文字化資料の分析より」『ことば』31号 pp. 89-112
現代日本語研究会

田中ゆかり (2011) 『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店

本浜秀彦 (2011) 「『沖縄人』表象と役割語—語尾表現『さ』(『さぁ』) から考える」 金水敏
編『役割語研究の展開』 pp. 181-193 くろしお出版

米川明彦 (1998) 『若者語を科学する』明治書院

(たかはし みなこ・琉球大学)